

令和 7 年第 3 回定例会

大野誠一郎による一般質問質疑応答全文（2025 年 9 月 11 日）

【注意事項】

ここに記載した龍ヶ崎市議会定例会における答弁内容は当ホームページ掲載に向けて一部体裁等を調整しておりますが、内容については公式に発表された議事録と照合した上で、忠実に再現しております。

大野誠一郎

通告に従いまして、一般質問を行います。

ユーチューブ、あるいは傍聴者の皆さん、ご視聴いただきましてありがとうございます。心より御礼を申し上げます。

質問項目は、スポーツクライミングのまち龍ヶ崎についてであります。

スポーツクライミングのまち龍ヶ崎推進事業については、ささいな疑念から始まりましたが、情報公開により黒塗りの非公開の部分があまりにも多く、真っ黒に塗られている箇所があり大変驚愕いたしました。

そこで、スポーツクライミングのまち龍ヶ崎推進支援事業の検証をしたいと思います。

まず、スポーツクライミングのまち龍ヶ崎について。

スポーツクライミングのまち龍ヶ崎のプロポーザル方式公募についてお伺いいたします。

このプロポーザル方式の公募についての契約を選んだのはどういう理由であるかをお伺いしたいと思います。

足立典生健康スポーツ部長

スポーツクライミングのまち龍ヶ崎推進事業は、日本クライミング会の先駆者であり、オリンピック東京大会のメダリストである野口啓代さんやオリンピック 2 大会連続出場を果たし、現在も世界の第一線で戦う檜崎智亜選手という本市ならではの人的資源を生かし、既に本市の特徴として認識されているものとうまく融合させながら、スポーツクライミングをまちのにぎわい創出、活性化のためのコンテンツの一つとして浸透させることにより、まちづくりの一翼を担うものにしようとするものでございます。

そのためには、中長期的な事業展開を見据えた指針を示すことや、幅広い層の市民がスポーツクライミングに触れる機会の創出、市内外へのプロモーション、持続可能な財源の確保手法の検討など多岐にわたる施策を構築することにより、この事業をまちづくりにつなげるために行政だけでなく、市民の皆様、地域の団体、企業などの多様な主体との関わり合いが肝要であります。

これらを踏まえ、行政の視点に加えて民間企業の専門性、技術力、企画力などの多角的な視点を取り込もうと考え、価格競争による入札ではなく、公募型プロポーザル方式を選択いたしました。

なお、当該プロポーザルの参加に係る資格要件においては、当市ガイドラインで必須要件としている事業の事項のほか、「過去に国や地方公共団体が発注者としてスポーツを活用したまちづくりの計画策定や事業推進などの業務について、元請として受注実績があること」という条件を付し、事業推進に十分

な知識と経験を有する事業者をターゲットに公募を行ったものでございます。

大野 誠一郎

市プロポーザル方式の実施に関するガイドラインでは、今部長がお話ししましたように、「事業者から当該業務に関する提案を求め、専門性、技術力、企画力等を総合的に判断する」とこのガイドラインにはありますけれども、基本構想策定業務受託者はどのような点で優れているのかをお尋ねいたします。

足立典生健康スポーツ部長

令和 6 年度の公募型プロポーザル方式の企業提案においては、主にスポーツクライミングのまち龍ヶ崎の実現に向けた方針、基本構想策定、キックオフイベントの企画運営などについて、2 社から提案をいただきました。両社とも豊富な経験、実績を有する企業で、提案内容もすばらしいものでございました。

優先交渉権者の提案内容についてご説明申し上げますと、まずスポーツクライミングのまち龍ヶ崎の実現に向けた方針では、「教育学習」「にぎわい創出」「産業振興」「プロモーション」「競技者支援」「環境づくり」の六つの政策についての方針を定め、各政策の中で個別の事業を導き出し、令和 6 年度を戦略策定段階、令和 7 年・8 年度を企画実行段階とする事業設計でございました。

次に、基本構想策定に当たっては、本市の現状や市場動向の調査などからこの事業が目指す姿の素案を作成し、審議会、ワークショップ、ヒアリングを通じた多様な主体の意見を反映させながら基本構想を精緻化していくといった道筋が示されておりました。

最後に、キックオフイベントの企画運営では、クライミング教室とトップ選手のトークショーを開催、またはユース大会を開催するほか、特産品などを提供する事業者との連携やスポーツクライミング競技団体との連携といった点も組み込まれたものでございました。

優先交渉権者の提案は、事業開始初年度において重要となる基本構想策定において具体性があり、中長期的な取組方針に期待の持てるものでございました。特に提案時の素案において、後に基本構想の各事業の実施テーマとなる「教育学習」「にぎわい創出」「産業振興」「プロモーション」「競技者支援」「環境整備」という六つのテーマと各テーマで実施する取組、その時期が具体的に示されており、評価につながったものと考えております。

加えて、キックオフイベントの提案内容は、スポーツクライミングのまち龍ヶ崎を市内外に広く周知することができ効果的なものであり、事業者のノウハウやリレーションが活かされたものと感じております。

なお、プロポーザル選定委員会の評価結果において、次点の企業と比較いたしますと、スポーツクライミングのまち龍ヶ崎の実現に向けた基本的な方針、具体的かつ実現可能なアクションプランの創出、効果的・魅力的なキックオフイベントの企画運営といった評価項目で優先交渉権者に対する評価のほうが優れた結果となりました。

大野 誠一郎

そういう中でプロポーザル公募をいたしまして、7 月 22 日から公募の開始をして、9 月 6 日提出期限をもって、そして 10 月 25 日、龍ヶ崎市とデロイト・トーマツコンサルティング合同会社と契約をしたわけでございます。その契約の際の補正予算が令和 6 年 6 月議会に補正予算が出たわけでございますけれども、その補正予算の見積書が 4 月 21 日に見積書がデロイト社から上がっております。今日の私の補

足資料の中で、その 4 月 21 日、デロイトから見積書が上がったというのが補足資料に出ております。そして、その補足資料が令和 6 年 2 月 15 日に予算の見積りを出してくださいというような依頼をしました。そのときの協議は、デロイト、スポーツビズ、市、いわゆる龍ケ崎市のスポーツ推進課、企画課の皆さんでいろいろ話し合われております。そして、その前の令和 5 年 11 月 14 日、このときに野口啓代さん、スポーツビズ、あるいはデロイト社、茨城県、龍ケ崎市からスポーツ推進課、企画課、この令和 5 年 11 月 14 日から既に話し合われています。内容としては、デロイトトーマツ株式会社より龍ケ崎のこれまでの取組、あるいは地方創生に向けての課題、スポーツライミングのまちづくりの提案、六つのプロジェクト、そういったものがデロイトトーマツから説明をされ、いろいろな打合せ、協議をしております。

そして、また同じく明くる年の令和 6 年 2 月 15 日、デロイト、スポーツビズ、市、市からスポーツ推進課、企画課、そこでいろいろ話をされていて、最終的に見積りを下さいと。その見積りが 4 月 21 日の補足資料の中で出ておる資料でございます。

専門性、技術力、あるいは企画力ということをお話しして、それがデロイトトーマツ合同会社が優れているというような内容でございましたけれども、仕様書から、いわゆる提案するときの仕様書、それからデロイトトーマツから出た提案書は、やはり補足資料に入っておりますけれども、野口啓代氏との一体となった事業推進、スポーツライミングのまちづくりを進める上では野口啓代氏との連携は必須であり、基本構想やキックオフイベントの方向性、内容について合意済みであると。そして、提案書の次のページには、計画の位置づけ・目的着手済み、策定方法、基本プロセスが着手済みである。計画内容を検討が着手済みである。外部環境調査着手済み、内部事項調査着手済み、ビジョンコンセプトは仮案作成済み、仮の案ということです。施策内容が仮案作成済み、ロードマップ仮案作成済み、仕様書のものについてのもものがほとんど着手済み、あるいは仮案作成済み、そういった中でスポーツライミングのまち龍ケ崎のプロポーザル方式の公募、それが行われている。そして、デロイトに決定したわけです。言うなれば、最初から特定の企業に決まっていたんではないかと、そういう疑念が、疑念ではないですね。そう思われても仕方がないと。

つまり、公募をする 10 か月ぐらい前から、いわゆる令和 5 年 11 月 14 日から野口啓代さん、スポーツビズ、デロイト、茨城県、市で打合せ協議をする。令和 6 年 2 月 15 日からデロイト社、スポーツビズ、市、市のスポーツ推進課、企画課とも打合せしておるわけです。つまり、特定の企業が既に決まっていたんではないかということをお考えしますので、市長あるいは部長の見解をお願いいたします。

足立典生健康スポーツ部長

本市には、スポーツライミングで世界的に活躍する野口啓代氏が存在する恵まれた環境、さらに野口啓代氏が 2020 東京オリンピックで銅メダルを獲得したこともあって、オリンピックのレガシーを生かしながら、スポーツライミングをきっかけとした新たな事業展開の可能性を模索しておりました。その過程において、これまでもスポーツライミングを通じた取組に対する意見交換を行ってきた野口啓代氏のマネジメント会社から紹介を受け、コンサルタント受託者と面会し、事業の提案を受けた経緯がございます。市として新たな挑戦に踏み出すに当たり、全国の先進的な取組をはじめ、スポーツライミングの特性や事業所等を理解するための情報収集の一環で行ったものでございます。

大野誠一郎

部長の答弁ちょっと分かりませんが、部長の答弁としては、その令和 5 年 11 月 14 日、令和 6 年 2 月 15 日、いわゆる補正予算の見積りを取った 6 か月前の話は情報収集だと、そういうような答えですよね。それでは正直言って私は納得いきません。言うなれば、デロイトトーマツ合同会社はなぜこの令和 5 年 11 月 14 日の場にいるんだろうかと。野口さんと市の皆さんでお話するぐらいなら、情報収集というのは分かりますけれども、茨城県のそういった恐らくデジタル田園都市構想の交付金の関わりなのかどうかちょっと私は分かりませんが、茨城県としか書いていないですから。スポーツビズは野口さんが所属しているマネジメント会社ということですから多少分かりますけれども、大元のこの支援業務の受けた会社がどうしてこの令和 5 年 11 月 14 日、公募をする 1 年近くも前から接触していたのかと、それをお尋ねいたします。

足立典生健康スポーツ部長

最初のきっかけというのは、先ほどと同じような答弁になるんですが、東京オリンピックが明けてその後、オリンピックのレガシーを生かそうということで、市のほうも模索していたというところ、これまでもスポーツクライミングを通じた取組に対する意見交換を野口啓代さんとは行ってきましたので、その野口啓代さんのマネジメント会社からの紹介を受け、受託者と面会をいたしまして、事業の提案を受けたというのが経緯でございます。最初にそれがそのときが始まりということでもあります。

大野誠一郎

ですが、結果的にはデロイト、いわゆる啓代さん、あるいはスポーツビズから紹介を受けたデロイトさんが令和 6 年度のスポーツクライミングのまち龍ヶ崎の推進支援業務は受けたわけですよね。いわゆるプロポーザル方式の公募で優先権者になったわけですよね。そして契約をしたわけですよね。それで、今年の令和 7 年度もこのプロポーザル公募で優先権者になって契約をしていますね。今うんと言っただけでも、これどうやって言ったらいいかな、一応答えてくれますか。

足立典生健康スポーツ部長

この事業の立ち上げに当たりましては、業務委託を公募型プロポーザル方式にて広く事業提案者を募り、2 社から企業提案を受け、その評価の結果に基づき契約を締結しております。

なお、参加に至らなかったものの、事業提案者以外からも事業に関する問合せをいただいております。結果として、最初にコンタクトのあった企業と契約を締結することになりましたが、あくまでも企業提案の評価の結果でございます。

大野誠一郎

あくまでも評価の結果であるとは言えるものの、やはり皆さん主観がありますから。ちゃんとした基準があるわけではないし、だから評価の基準はあっても、点数つけるのは選定委員会が部長や課長とかそういった人の皆さんですから、点数をつけるのは高くつける、低くつけることは幾らでもできるわけですよね。

そこで、私が今聞きたかったのは、言うなれば令和 6 年度も令和 7 年度も優先権者でデロイトが契約したんでしょうと。ですからそれがはい、違うということでもいいんですよ。ただ、私とこの部長との中での話で

そうですね、うんなんて顔をあるいは顎を下げてても皆さんは分からないから、この議場にいない方は。そういう意味で、契約したのはデロイトですよ、そういう話で返事をいただきたいんです。ですから、評価の結果、デロイト社が令和 6 年度と 7 年度を契約しましたと。お願いします。

足立典生健康スポーツ部長

公募型プロポーザルの結果、2 社から応募をいただきまして、選定委員会を開きまして、評価の結果、デロイトトーマツと契約をいたしました。

大野誠一郎

分かりました。

言うなれば、私がお話ししましたとおり、半年あるいは半年以上前からそういう協議をしていた。私、いい加減なことを言っているわけじゃないんです。令和 5 年 11 月 14 日と令和 6 年 2 月 15 日は、打合せの記録を情報公開で頂きました。要はデロイトの経緯は、デロイトとの関係はいつからなって、いつ頃から協議していたのかというお話で、そういう情報公開をいただきました。なぜかといいますと、この補足資料に出しましたように、去年、令和 6 年 4 月 21 日付の見積書があるわけで、そういうことで考えたわけです。

一つ、あとは決算委員会ではやりますけれども、一つだけちょっとお尋ねしたいのは、その補足資料の中の見積書、契約時の見積書が出ていますと思いますが、基本調査 590 万円というものをどのように使ったのか、それをお尋ねしたいと思います。言うなれば、競合する調査、それから市場調査、それから実施調査、龍ヶ崎のスポーツライミングがどこでやれるか、あるいはどんなふうな状況になっているかを実施調査ということによってやったわけです。そういうわけで、その調査がそれほどいわゆる実績報告書で見ますと、さほど調査をしていないような感じなもので、どんなふうな調査をしているかをお尋ねしたいと思います。

足立典生健康スポーツ部長

スポーツライミングの市場動向調査及びスポーツライミングやスポーツ施設を拠点としたまちづくりの事例を調査するとともに、市内の連携可能資源等を整理し、外部環境と内部環境を実施、その上で本事業を進める上でポイントとなる本市の持つ優位性や課題等を分析し、注力するテーマを整理いたしました。

また、現状把握を念頭に置いた市民対象としたアンケート調査や施設の実行に向けた連携候補となる団体が参加したワークショップを開催しております。

大野誠一郎

私の質問は、どのようなお金の使い道をしているのかという話です。恐らく黒塗りになっていますので、補足資料を見てもらっても分かるように、ほとんど黒塗りになっていますから、恐らく答えることはできないです。答えることができないでしょう。だから、その提案書の中では基本構想策定に関する基礎調査は 540 万、私が今言ったのは、部長の前の回の答弁で 590 万というわけで言われたんですよ。ちょっと私、幾らと聞いたらいいか分からないけれども、一応部長が発言したような 590 万で言っておりますけれども、いずれにしてもその小さい項目が黒塗りになっているんです。だから答弁できますか。その黒塗りになっているやつが市

場調査、基本調査、実施調査ということで、恐らく三つに分かれていると思うんです。その使い道は分かりますか。じゃ、お願いします。

足立典生健康スポーツ部長

見積りで示された金額につきましては、企業が積算しました人件費の見積りということでありますので、金額については人件費ということになります。

大野誠一郎

人件費というのは分かるんですけども、いわゆるそのスポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定に関する基礎調査が、この補足資料は 540 万になっておりますけれども、その中に三つ、いわゆる市場分析としてスポーツライミングのトレンド調査、トップ選手のヒアリング調査を行うと。二つ目には競合分析と、それから三つ目は市内で活用可能な地域資源ということで書いてあります。その市内で活用可能な地域資源というのは、たつこのアリーナの中のサブコートの中のクライミングの施設です。そして、あとは森林公園のほうに一つスポーツライミングができるところがあるということで、その二つを調査して、その調査が幾らだったのかを知りたいんです。

それから、その上の競合分析というのは、鉾田とか、鉾田が国体でやっていますので、鉾田にスポーツライミングの施設があると。そして、笠間にもあると。そういったものをどんなふう調査しているのか。その調査の内容は実績報告書の中には書いていないんです、どんなふう調査したかというのを。察するには、パソコンか何かでホームページか何かで調べただけだろうと思うんです。ですから、どれだけのお金がかかっているんですかということをお聞きしたいんです。よろしいですか。内容が分からない。内容が分からないと言っても、私も詳しく説明しているつもりでいるんですから。でも時間がありますから説明はできませんよね、黒くなっているから。

足立典生健康スポーツ部長

基本構想の調査業務につきましては、主に既存資料や公開データを活用したデスクトップ調査を中心に実施をしております。見積りで示された金額について、高額というふうに感じるご指摘だと思うんですけども、事業の本質、事業の性質上、調査に付随して関係者ヒアリングや分析、資料作成、調整等のほかアンケート調査やワークショップ等の業務も含まれております。また、当該業務には標準的な標準額の基準が存在するものではなく、一般的な相場は各事業者の積算や体制によって幅があるため、見積りを聴取して確認しているのが現状でございます。おのこの各見積りにつきましては、事業者の情報ということで、事業者のノウハウが詰まった情報ということで非公開というふうにさせていただいております。

大野誠一郎

言えないんですか。

足立典生健康スポーツ部長

言えません。

大野誠一郎

金額は会社のノウハウ、あるいは会社の不利益になるという理由で情報公開がされておられません。私が言いたいことは、プロポーザル方式の公募については、価格は関係ないと。多少採点はあるんでしょうけれども、価格の差は安い、高いは関係ないと、そういうことなんですけれども、この 4 月 21 日にデロイトトーマツから出た見積りどおりなんです。四、五万ちょっと違ったくらいで、いわゆる 4 月 21 日に見積りを出した金額と契約時の金額というものはほとんど四、五万違うんです。何を言いたいかというのは、言うなれば金額は言いなりですよ。幾らでも高く書いてもいいんですよ。企画力、技術力、専門性があるというふうに判断されれば、金額は言いなりということをお願いしたいわけです。何か見解ありますか。

そういうことで、特定の業者に優先権者がいって契約をしたり、あるいは説明ができないような金額で、金額も言いなりになっていると。言いなりになっているというような、説明ができないんですから、そういうことであると思います。

続いて……。

足立典生健康スポーツ部長

スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想の策定に当たりましては、基礎調査を実施しております。この調査は、構想の方向性を検討するための基礎資料を整えるものでありまして、その内容といたしましては、市民や若者世代の関心やニーズ、先進自治体の取組状況、スポーツクライミングを取り巻く環境などを幅広く把握することを目的とし、市場レポートや統計資料等の確認、先行事例の収集、アンケート調査による情報収集や関係団体等のワークショップ開催などを行ったものであります。これにより、本市から見た内部環境、外部環境の基礎的な情報を整理した上でスロット分析につなげ、本市にとっての強みや課題、今後の可能性などを検討する材料とし、基本構想策定の施策立案につなげるものでございます。また、これにより整理した基本構想案を基本構想策定審議会にて審議いただき、必要に応じて意見を反映して精緻化をしております。

先ほどの金額につきましては、上限というものも設けております。また、先ほども申しましたが、この業務に当たっての単価ですとか歩掛かりというのがございせん。見積りを聴取した額ということで予算のほうも計上させていただいております。そのことから、実際に 2 社の事業者が応募してきていただいたんですけれども、金額については同じような金額になっておりますので、妥当なのかなというふうなところで私どものほうは考えております。

大野誠一郎

調査の内容は、実績報告書を私見ていますし、あるいは基本構想の中にも出ておりますので、それは分かりますから。分からないのは、その金額の中身が分からないということ言っていて、ですから、それはそれで言えないわけです。

さらに、もっと聞くということになりますれば、なぜ報告書が 190 万円、これは補足資料の中に書いてあるのは 190 万なんです、部長が 6 月にお話した金額は 210 万でした。190 万でも 200 万でもいいんですけれども、この業務成果の取りまとめ、それがどうして 190 万かかるのか、そういうことをお聞きしているんです。本来、基本構想の策定は 520 万なんです。だから、本来は基本構想の策定の中に調査費、そしてまとめる、いわゆる基本構想ができましたよというものが中に入るわけです。極端なことを言ったら、

520 万の中で全部進んでいるわけです。そんなふうに思いますから、ちょっと言い方は乱暴なんです、値段は言いなりじゃないですかと、言いなりじゃないでしょうかというような言い方にしちゃうんです。それはそれで終わりにいたします。

続いて、キックオフイベントを基本構想ができない前に、基本構想が策定する前に、つまり基本構想は 3 月 28 日に策定審議会で最終日となりました。ところが 3 月 15、16 日でキックオフイベントをやりました。そのキックオフイベントの検証をお願いしたいと思います。

足立典生健康スポーツ部長

AKIYO'S DREAM with RYUGASAKIの競技参加者は、小学生の部で 144 名、中学生の部で 93 名、合計 237 名が全国各地あるいは海外からエントリーされ、当日の欠席者を除き 222 名が選手として参加をしております。保護者や大会関係者、スタッフ、観戦者を含めると、2 日間で延べ約 1,100 名がニューライフアリーナ龍ヶ崎へ足を運んでいただいております。

経済効果において、本市で把握している数字につきましては、スタッフの宿泊費が延べ 91 泊で 61 万円、警備費が 4 万円、スタッフのお弁当が 200 食で 16 万円、キッチンカーや物産品の販売が 61 万円、合計で 142 万円です。

このほか大会中に実施したアンケートによりますと、約 8 割、155 名の方が会場で何らかの買物を行い、約 7 割、139 名の方が市内で飲食や物品の購入を行い、18 件の世帯が市内の宿泊施設を利用したと回答しており、一定程度の経済効果があったと考えております。

教育分野では、大会に参加した市内在住の小・中学生 9 名にとっては、全国の同年代の選手の技量に触れる貴重な機会となり、今後協議を続けるに当たって大きな経験になったと思います。大会終了後には、特設の壁を自由に登る時間を設け、体験機会の創出に努めたところでございます。

本大会には、多くの方が本市に訪れ、魅力に触れていただくとともに、女子クライマーのパイオニアである野口啓代さんとの共催により、インスタグラムのユーチューブチャンネルなどの SNS での情報発信や数多くの大手マスメディアでの大会の開催が取り上げられたこと、大会参加者の自発的な SNS での情報発信により、本市の認知度向上に大きく寄与したものと考えております。

一方で、市内の参加者選手や関係者以外の観客、開催時期が受験シーズンに近く、中学 3 年生のエントリーが少なかったこと、予選と決勝の時間配分や、前日の発表により中学生のエントリー統合などの競技運営に対すること、宿泊施設や観光施設との連携、広報、案内方法の工夫などの課題があったと認識をしております。

大野誠一郎

エントリーされた参加者の皆さんが 237 名ということでしたが、海外の方からも参加されたということで、参加された方まず何名でいるかどうか、お願いいたします。

それと、もう一つには、1,100 名が訪れたということですが、その内訳をお願いいたします。内訳というのは、選手、それから保護者、何かどうやらその 1,100 名の中にはユース大会を運営した人たち、それからボランティアの方も含まれているんじゃないかと思うんですが、違うんでしたら違うでもいいんですけども、その内訳をお願いいたします。

足立典生健康スポーツ部長

外国人の参加者についてでございます。

中国が 2 名、シンガポールが 1 名でございます。

次に、延べ人数 1,146 名の内訳でございます。

初日の 3 月 15 日延べ人数が 675 名でございます。予選が 320 名、決勝が 250 名と協賛者が、これは選手とその会場にいる親、関係者を含めての数字になるかと思います。協賛者が 14 名、スタッフ 71 名、ボランティアは 20 名となっております。

続いて、3 月 16 日延べ人数が 471 名、予選におきましては 250 名、決勝が 120 名、協賛者が 10 名、スタッフが 71 名、ボランティアについては 20 名となっております。

いずれもこれ延べ人数ということで申し上げます。

大野誠一郎

延べ人数ということは、予選と決勝に出た人は 2 人になりますね、延べというのはそうですね、そうだと思います。違うんですか。

それと、この 1,146 名という人数は全部関係者ですよ。関係者でも東京から来る、あるいはスタッフの 71 名はどこから来るかは分かりませんが、よそから来るからそういう意味で交流人口と言っているんでしょうけれども、言うなれば、その交流人口がどのくらいだったのかということをお聞きしているんです。

足立典生健康スポーツ部長

先ほど申しました 1,146 名について、交流人口というふうに捉えております。

大野誠一郎

何となく理解していないみたいなので、交流人口が 1,146 名ということは分かりましたけれども、説明で分かりましたけれども、その延べになっているということが予選と決勝がどれだけになっているのかということでお聞きしたんです。それはそれでいいですよ、もう。前にも言ったように、延べ人数にして増やしているのかなと思っちゃうもんで、それでも 1,146 名だから、いわゆるにぎわい創生、交流人口にしても 1,146 名で本当にいわゆる 1,700 万円のユース大会を開いて 1,146 名なのかという気持ちがします。実際問題、ジャパンカップ、あるいはワールドカップ開いても、デロイトトーマツの見積り、交流人口、にぎわい創生の人数は 2,000 人はいかないんですよ。そういう実績報告書の中でワールドカップは何人、ジャパンカップは何人ということで書いてありますけれども、2,000 人はならないと。何を言わんとしているかは、にぎわい創生というものは、イベントをやって 1,000 から 2,000 のにぎわい創生なのかと言いたいです。ましてや日頃、平日は、あるいはイベントをやらない日はどれだけの人数が交流人口として来ているのかと、そういうことを言いたいです。

それと産業振興、弁当を売ったり、あるいはアリーナの中のブースで売ったり、これが 6 万円、それから 2 日間キッチンカーを、キッチンカーは次の日雨でしたから、キッチンカーは出なかった。でも、名前を言ってもいいでしょう。高橋肉屋さんとか名古屋さんが頑張って、あるいはコロッケクラブ龍ヶ崎が 2 日頑張りましたけれども、それがデロイトの発表では 61 万です、61 万、それからアリーナの中のブースで売ったのが 2 日間で 6 万円。

それと部長が言う 91 泊、そのほかにも何か泊まったというふうな話もありますけれども、その 91 泊というのは関係者というかスポーツビズとか茨城県山岳協会とかそういう来られない方が宿泊したと、そういうことでいいですね。あまり間違ったことを言っていると、じゃ、お願いします。

足立典生健康スポーツ部長

先ほどもお伝えしたところなんですけれども、スタッフ宿泊費で延べ 91 泊です、61 万円、そのほか 18 件の世帯が市内の宿泊施設を利用したということで報告を受けております。

大野誠一郎

アンケートか何かで把握したんでしょうけれども、デロイトの実績報告書の中では、そのイベントのスタッフが何日間泊まり込んでイベントをやりましたという中で書いてありました。

それと、検証については、交流人口あるいはにぎわい創出、産業振興についても私は非常に低いものであるというふうに思っております。恐らくこれからも低いまま推移するだろうと思います。一応は特産物というか、何か商品を開発するということなわけでしょうけれども、それこそ一、二年では大変無理かと思えますから、3 年間の中での効果というのは非常に難しいように思います。

続きまして、令和 7 年度のスポーツクライミングのまち龍ヶ崎推進支援業務についてお尋ねいたしますが、その契約内容、あるいは内訳についてお願いしたいと思えます。

足立典生健康スポーツ部長

スポーツクライミングのまち龍ヶ崎推進事業の契約状況でございますが、推進事業の業務委託はデロイトーマツコンサルティング合同会社と令和 7 年 7 月 11 日に契約を締結しており、契約額が 3,619 万円となっております。

委託料の内訳であります、本事業のプロポーザルの企画提案で提示された見積書の内訳で説明をいたします。

内訳書については、官民連携調整会議の構築運営、基本構想に位置づける個別事業である教育学習事業、プロモーション事業、にぎわい創出事業、環境整備、資金調達のほか自主提案事業に区分をしております。

官民連携調整会議の構築運営は 624 万円となっており、本事業の推進に向け、関連する団体や民間企業等との意見交換や連携に向けた各種調整を図り、基本構想に掲げる各アクションの実行力を高めていくため設置するものであります。また、各アクションに対する素案を検討するとともに、本会議の資料作成をはじめ会議全体の運営を担うものであります。

教育学習事業は 440 万円となっており、学校連携の実施に向けた課題や手法などを整理し、事業計画案を作成するとともに、幅広い方をターゲットとしました体験会の企画調整及び運営を行ってまいります。

プロモーション事業は 308 万円となっており、プロモーション動画やロゴといったプロモーションコンテンツの作成と並行し、認知拡大に向けたプロモーション方針案を作成してまいります。

にぎわい創出事業でございますが、当初日本山岳・スポーツクライミング協会が主催するボルダージャパンカップ大会を誘致するための費用として 1,000 万円、大会開催に合わせた本市のブランディングや

おもてなし、にぎわいイベントなどの企画運営に当たる費用として 500 万円を見込んでおりましたが、先日の全員協議会でもご説明いたしましたが、ジャパンカップの誘致については、残念ながら本年度はかないませんでした。その代替大会といたしまして、昨年度と同様に野口啓代さんとの共催によりAKIYO'S DREAM with RYUGASAKIを2月7日、8日及び11日の3日間を使って開催するよう調整を行っております。また、競技者だけでなく、幅広い年代に関心を持っていただき、さらに特産品をはじめ本市の魅力を発信するそういった複合的なイベントを目指してまいります。なお、費用については、誘致費を上限といたしまして、企画内容に応じて企業協賛や参加者負担金を自己調達するものとしております。

次に、環境整備資金調達事業ですが 582 万円を見込んでおり、大規模施設、練習施設、普及等に資する施設等それぞれの区分に応じて事業費、整備手法、財源等を総合的な視点から検証するほか、継続的な資金調達手法や協力企業の発掘支援などと併せて最適な環境整備の在り方を検討してまいります。

自主提案事業としましては、次年度以降の展開を見据え、基本構想に掲げる地域の名物等との連携や人材確保に向け、商品開発のニーズ把握や意見交換の場の創出及び本事業の推進人材の確保に向けた条件整理を行うこととし、165 万円を見込んでおります。なお、この内訳は一般管理費などの諸経費や消費税などが含まれた金額となっております。

最後に、推進支援業務の契約とは別契約となりますが、小学校3校の肋木に設置するボルダリングウォール遊具の購入について、池田スポーツと令和7年6月24日に契約を締結しており、契約額は333万4,000円でございます。遊具につきましては、先日9月2日に八原小学校及び馴馬台小学校、9月3日に川原代小学校に設置したところでございますので、併せて報告させていただきます。

大野誠一郎

また細かい内容については黒塗りとなっておりますから、恐らく答えるのは難しいでしょうから、それはちょっと差し控えます。また違う場においてお尋ねいたします。

一つお聞きしたいのは、ジャパンカップの誘致費が1,000万円ということとなっておりますけれども、それが代替大会ということになったわけですが、その代替大会については誘致費に代わる1,000万プラスその協賛金、あるいは参加費、そういったものはどのぐらい見込んでおるのでしょうか。

足立典生健康スポーツ部長

協賛金ですとか参加費につきましては、いまだ協議をしておりませんので、今担当として考えているのは、昨年ベースぐらいなのかなというようなところでは捉えているところではございます。

大野誠一郎

またあまり協議をしていないということで分からないということですから、それはそれでまた後にいたします。

続いて、基本構想の中で令和7年度のアクションに策定されましたスポーツライミングの環境整備についてお尋ねいたします。

足立典生健康スポーツ部長

スポーツライミングのまち龍ヶ崎の実現に向け、市民や来訪者が継続的に関わる拠点となるような施

設、これは本事業の実効性を高める上で検討すべき要素であると捉えており、基本構想において施設規模に応じた整備手法や運営手法などを踏まえ、その実現の可能性を検討することにしております。

施設規模につきましては、競技者のレベルや利用目的に応じた多様なニーズに対応することが必要であり、大規模施設、練習施設、普及等に資する施設など多岐にわたります。さらに、ジャパンカップのような高度な大会や大規模イベントを数多く開催するためには、今後ボルダールのほかリードやスピードなど競技種類、規模に応じた常設の施設整備が求められるなど、将来にわたり多額の財政負担が生じることが考えられます。環境整備を進めていくためには、単に施設を整えるだけでなく、運営面や経営面を含めた総合的な視点が必須となります。現時点では体験会の実施や気楽に触れられるような施設の整備、民間ジムの誘致が優先すべき取組になると考えておりますが、本年度において施設整備の在り方について整備手法や運営体制、維持管理コスト、資金調達の手法など多角的な視点から本事業を進める上で最適な方向性を検討してまいります。

大野 誠一郎

施設整備を幾つかの想定で考えるというのは、やはり施設の規模に応じて考えたり、それについてもどのぐらいかかるのかということを考えているように今聞こえましたけれども、実際どういう形で、具体的な形ではそういう施設の整備というものを考えているんですか。

足立典生健康スポーツ部長

本年度においていろいろな形があろうかと思うんですけれども、大規模施設、練習施設、普及等に応じる施設など多岐に及びますので、今年度において検討するというものであります。

大野 誠一郎

同じようにちょっと蒸し返しますけれども、やはりそういった検討の中でも非常に大きな予算といえましょうか、その金額が計上されていると思います。そういった意味で聞きました。ただ、それは推移を見たいと思います。

続いて、基本構想の中で、やはりその令和 7 年度のアクションに策定されました資金調達についてというものが出ておりますけれども、それについてどのような資金調達を考えているのかをお伺いしたいと思います。大体基本構想の中でも出ておりますけれども、企業版のふるさと納税とかそういう考えられる資金調達というのは二つ三つ書いてあるわけなんですけれども、そしてまた同じように検討したり何かするのにやはりお金が大分かかっているんですけれども、そういったお金の使い道が黒塗りで分からないので、そういったことを会社のノウハウとか不利益にならない程度に教えていただきたいと思うんですが。

足立典生健康スポーツ部長

資金調達についてお答えをいたします。

本事業を進める上で、資金調達、財源の確保とも言いますが、非常に重要となる視点であると認識をしております。先ほどの環境整備にも関連してまいります。仮に施設整備を行うとした場合、国庫補助制度やスポーツ振興くじ、いわゆるtoto助成、さらには企業版ふるさと納税の活用などあらゆる手法で財政負担の軽減を図ることができるのか、または後年度にわたり運営資金が確保できるのか、こういった

ことが一つの判断指標になり得ると考えております。

大会も同様に、令和 6 年度の AKIYO'S DREAM with RYUGASAKI では、国庫補助や民間企業からの協賛金などを活用し、一般財源を抑えながら開催することができましたが、特に国庫補助の採択期間が終了する令和 9 年度以降も同規模の大会を行うとすれば、いかに財源を確保するのか、これが大きな課題となります。施設整備や大会開催のみならず、本事業を持続可能なものとしていくためには、採択が見込まれる国・県の補助制度の精査はもとより、民間企業等が投資してもよいと共感していただけるような魅力ある取組、さらには民間主導で本事業を推進できるような事業展開を目指してまいりたいと考えております。

大野誠一郎

取組は分かるんだけど、私が聞きたいのは、どのような使い道をしているのかということで、それはそれでいいと思います。またそのうちお尋ねするようなことがありますので、時間もないものですから、最後までできるように続けていきたいと思います。

最後に、スポーツクライミングのまち龍ヶ崎は、市民の方は競技者も少なく、それからいろんな形で先ほどお尋ねしましたにぎわい創出、あるいは交流人口が少ない、あるいは産業振興の目的もなかなか少ないものだとは考えておりますけれども、いわゆるその市民の機運醸成もされていない中でクライミング施設を整備するのか、それを市長にお伺いしたいと思います。

萩原勇市長

大野誠一郎議員におかれましても、2 日にわたり会場へ足を運んでいただきました。AKIYO'S DREAM with RYUGASAKI の開幕の際、私はクライミングでこの龍ヶ崎を盛り上げていきたいと会場にお越しいただいた方にメッセージを送りました。本市にとってのスポーツクライミングは、これまでも答弁してまいりましたが、野口さんや檜崎選手が存在するオンリーワンの環境を有する誇れる資源であり、まちづくりにおける重要な取組の一つであると考えております。AKIYO'S DREAM with RYUGASAKI では、全国各地あるいは中国やシンガポールといった海外から集まった子どもたちがきらびやかな演出の下、真剣な眼差しで大きな壁に挑む姿、全員がライバルであるにもかかわらず、友人のように互いに声援を送り、共に喜び、悔しがる、そういった会場全体の一体感に非常に感銘を受けました。改めてスポーツのすばらしさを肌で感じるとともに、この事業の推進について大きな可能性を再認識させていただきました。

一方で、大会参加した市内クライマーは 9 名にとどまっており、市内の方々の観戦者もまだまだ少ないと感じたことも現実であります。真の意味でシビックプライドや地域全体での機運醸成には、これからの取組が重要になってくるものと考えております。そのためスポーツクライミングのまち龍ヶ崎は、行政主導ではなく市民や関係団体、教育機関等の多様な主体と共に育てていく、こういった風土を生み出すことが重要であることから、市民の理解と共感を得られるよう分かりやすい情報発信と対話を重ねながら、地域に根差した構想の実現に向けて取り組んでまいります。

最後にご質問ありました環境整備の中の特に施設整備については、昨年度、基本構想の策定に当たって答申を受けましたスポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会においても、「将来にわたり財政負担を伴う施設整備を行う場合には、市民との合意形成を十分に図った上で着手すること」との附帯意見をいただいていることも踏まえ、慎重な判断が必要であると考えているところでございます。

後藤敦志議長

時間になりましたので、以上で大野誠一郎議員の質問を終わります。

以上で一般質問を終結いたします。

----- 以上 -----